

大規模地震が発生した場合の対応について

千葉日本大学第一中・高等学校

ここでいう大規模地震とは、校内において強い揺れを感じ、周辺地域に家屋の倒壊、火災の発生、交通機関の途絶などが予想される場合を言う。

① 在校時の対応

避難訓練の時に定めた手順で避難する。

- 1) 教室のドアを開けて避難経路を確保する。実験室などで火気を使用している場合には火を止めて安全を確認する。
- 2) 落下物に注意して机の下に避難したり、カバンで頭を保護して、揺れの収まるのを落ち着いて待つ。
- 3) 揺れが収まったら、教職員の指示に従って、避難経路にそって第一グラウンドに避難する。建物の壁際（落下物）、サッカーゴール、バスケットリンク、ネットなどに十分に注意をする。
- 4) 避難場所に集合したら人員の確認作業に協力して、迅速冷静な行動を心がける。

下校については、通学路の安全が確認できた方面から、できるだけグループで下校する。下校した生徒は、自宅が被災して倒壊または消失している時には避難所に向かう。

利用交通機関が不通の場合、または遠距離で日没までに自宅に帰れないことが予想される場合は、学校に留まる。全校生徒の三食分の食料と毛布は用意されているので、落ち着いて教職員の指示に従うこと。保護者との連絡がついて帰宅のめどがついた時点で下校する。

② 登下校時の対応

徒歩、自転車通学の生徒は、速やかに身の安全を確保し、その場にしゃがんで落ち着いて揺れの収まるのを待つ。特に道路などでは、塀などの倒壊、看板や窓ガラスなどの落下に十分に注意をする。その後、最寄りの避難所を確認して避難する。

公共交通機関（バス・電車など）を利用している生徒は、手すりやつり革などにしっかりつかまって身の安全を確保し、車内放送をよく聞いて乗務員の指示に従って落ち着いて行動する。

いずれの場合も、家と学校のより近い方に行くように心がける。

③ 避難所の確認

大規模地震が発生した場合に備えて、自宅周辺に設けられている避難場所、通学途中の避難場所を確認しておく。また、家族間での携帯電話が繋がらない場合の緊急連絡方法なども確認しておくこと。

災害用伝言ダイヤルの利用方法

大規模災害が発生した時「171」番へ電話をすると、家族に安否や居場所などを知らせるための「災害用伝言ダイヤル」が利用できます。

「171」番に電話して音声案内に従って操作すると、30秒以内の録音ができます。また、「171」番に電話して音声案内に従って操作をすれば、全国どこからでも聞き取ることができます。録音内容は運用期間が終了した時点で消去されます。携帯電話、公衆電話からでも利用できます（平常時は運用していません）。

家族で、「災害用伝言ダイヤル」について話し合い、被災した場合に利用することを確認しておきましょう。